

現状・課題

運動・スポーツを行う理由としては、心身の健康のため(53.7%)という動機が強く、1年間に行った運動やスポーツは、健康づくりのための運動や個人で行う種目が上位を占めている

スポーツ未実施者の割合は着実に減少している(H12:31.9%→H21:22.2%)ものの、男女別に見ると、男性に比べ女性の割合が高く(H21:男性19.2%、女性24.8%)、年齢が高くなるにつれて未実施率が増加

障害の種類や程度に応じた日常的な障害者スポーツの現状について関連データが不足

全国的なスポーツ障害・事故のデータがなく、地域におけるスポーツ障害・事故の全体像が不明

各種スポーツ団体の公認指導者について、心肺蘇生法や外傷に対する応急処置等、スポーツ障害の予防や対処法を受講することとなっている。

計画的な施策の展開

(1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【施策目標】

・ライフステージに応じたスポーツ参加を促進する環境の整備により、各年代、性別でスポーツ未実施者(1年間に一度もスポーツをしない者)を減少させるとともに、既実施者についてはさらなる実施頻度の向上を図る

【主な施策の方向性】

- ・各年齢、性別ごとに日常的に必要な運動量の目安となる指針の策定
 - ・各年代や性別などライフステージに応じたスポーツ活動の実態を把握し、参加を促進するための方策を検討し取組を推進
 - ・特にスポーツ実施率の低い若い世代や高齢者に対するスポーツ参加機会の拡充
 - ・総合型クラブなどにおいて、年代や性別などターゲットを絞ったプログラムやスポーツイベントなどの開催を促進
 - ・親子で参加できるスポーツ教室などスポーツ未実施者に対するスポーツ参加のきっかけ作り
 - ・障害者が日常的にスポーツに取り組むことが出来る環境の在り方とその整備のための支援方策を検討し取組を推進
- ・・・etc

(2)スポーツにおける安全の確保

【施策目標】

・安心してスポーツ活動を行うための環境を整備し、スポーツ障害の件数を減らすとともに、スポーツ事故の件数を限りなくゼロに近づける

【主な施策の方向性】

- ・スポーツ指導者や施設管理者等に対するスポーツ障害・事故等に関する研修機会の充実
 - ・全国的なスポーツ障害・事故の実態を把握し、スポーツ医・科学の研究等において分析を行い、防止に結びつけるための取組
- ・・・etc

国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指し、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進するための環境整備を推進